

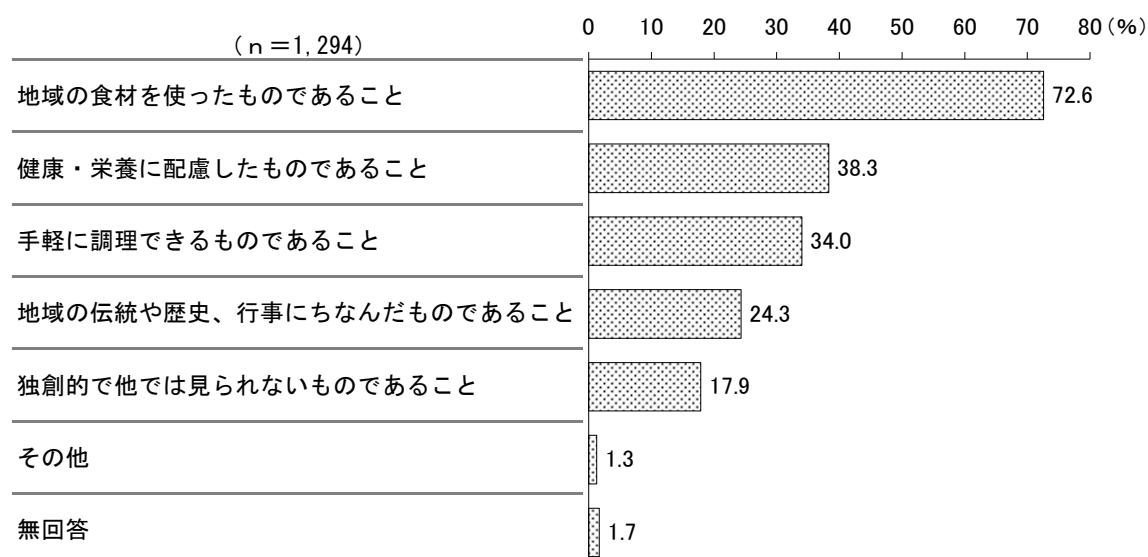
8 栃木の郷土の食について

(1) 「新たな郷土の食」をつくりあげる上で必要なこと

問29 今後つくりあげていく「新たな郷土の食」には、どのような要素が重要だと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

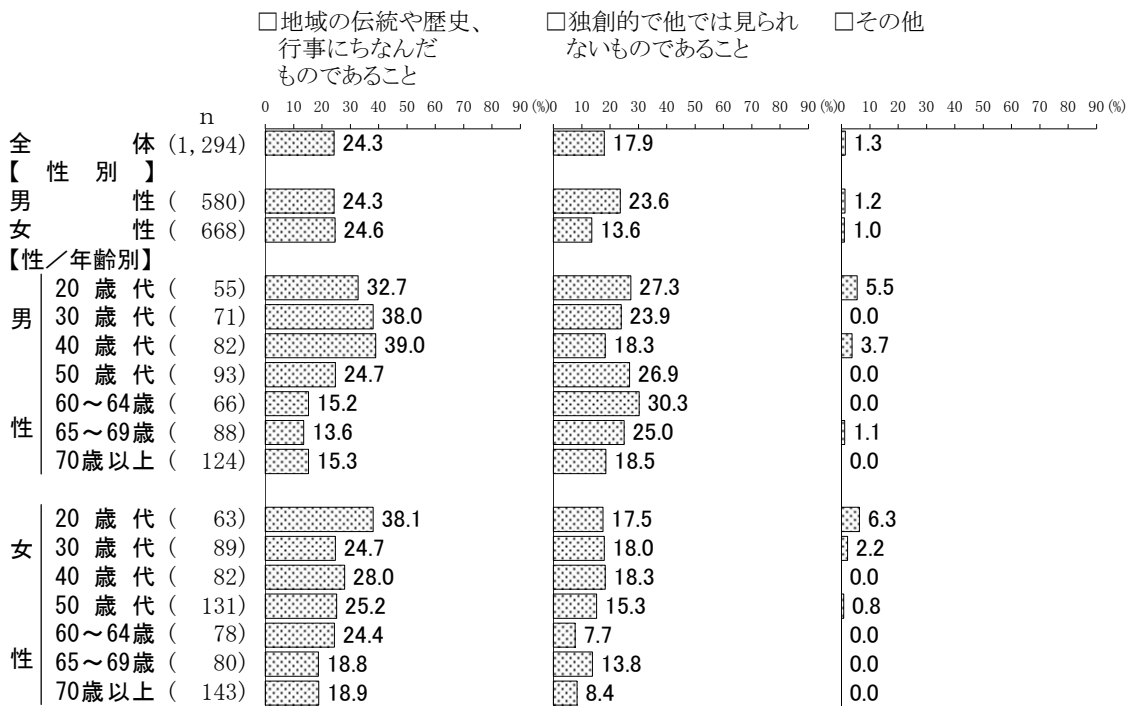
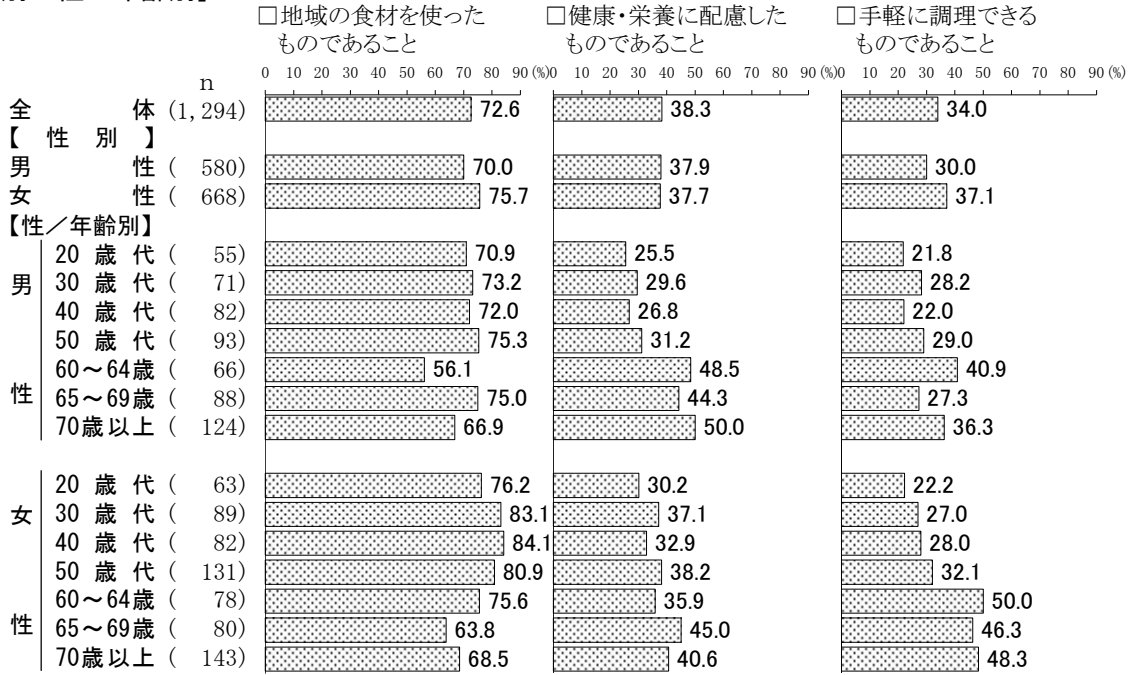
[n=1,294]

1 健康・栄養に配慮したものであること	38.3%
2 地域の食材を使ったものであること	72.6
3 地域の伝統や歴史、行事にちなんだものであること	24.3
4 独創的で他では見られないものであること	17.9
5 手軽に調理できるものであること	34.0
6 その他	1.3
(無回答)	1.7



全体で見ると、「地域の食材を使ったものであること」(72.6%)が7割を超えて最も高く、次いで「健康・栄養に配慮したものであること」(38.3%)、「手軽に調理できるものであること」(34.0%)、「地域の伝統や歴史、行事にちなんだものであること」(24.3%)、「独創的で他では見られないものであること」(17.9%)の順となっている。

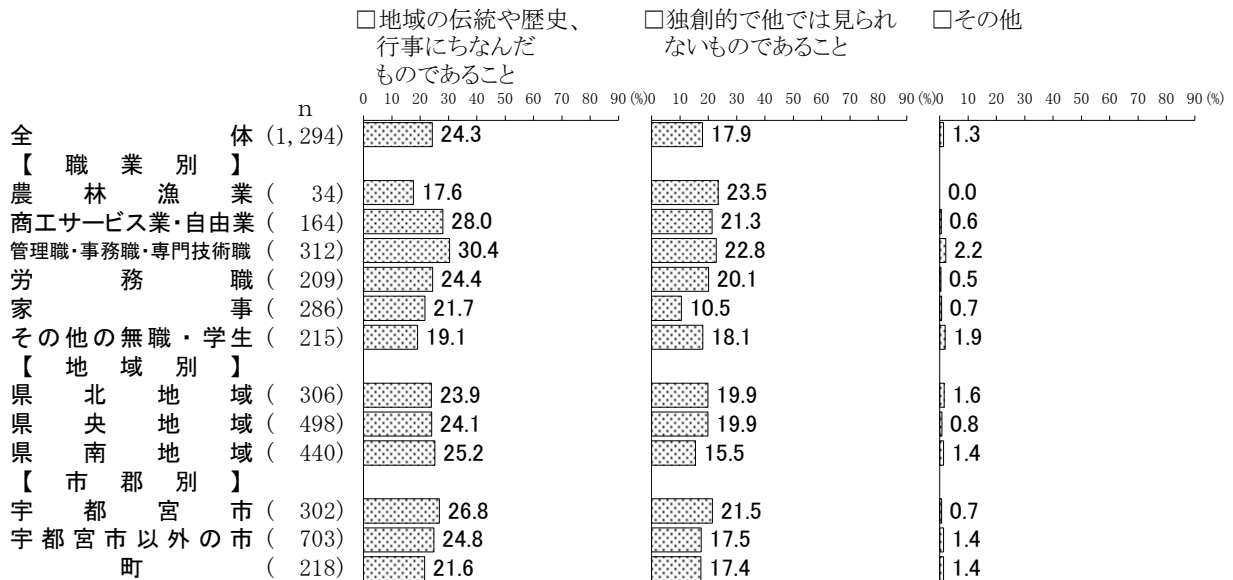
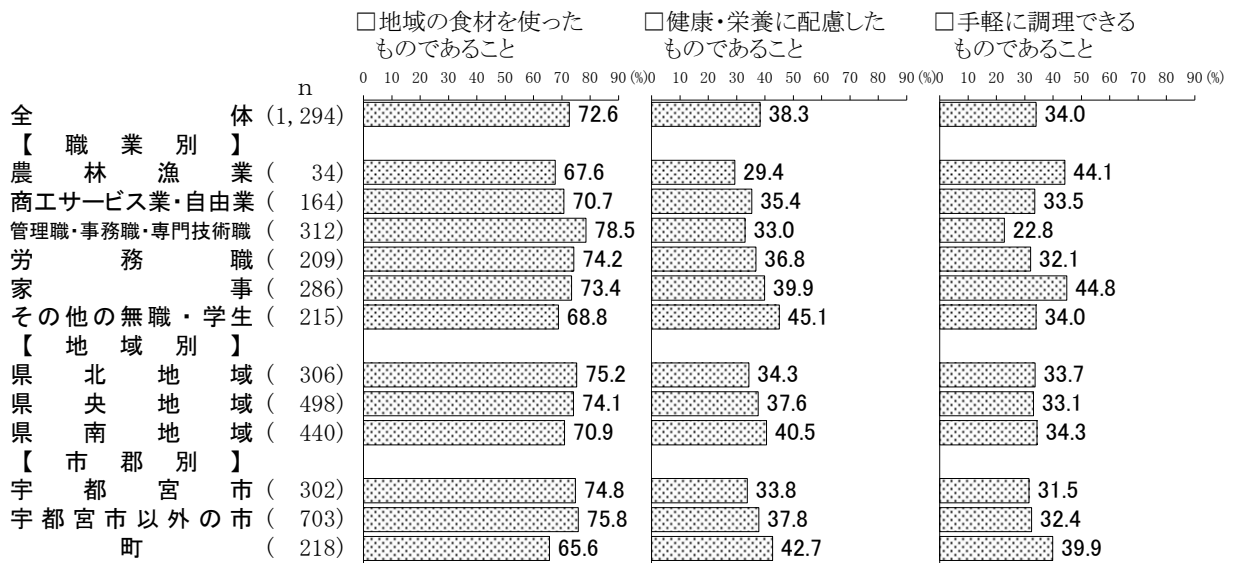
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「独創的で他では見られないものであること」では〈男性〉(23.6%)が〈女性〉(13.6%)より10.0ポイント高く、「手軽に調理できるものであること」では〈女性〉(37.1%)が〈男性〉(30.0%)より7.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「地域の食材を使ったものであること」では〈女性40歳代〉が84.1%、〈女性30歳代〉が83.1%と高くなっている。「健康・栄養に配慮したものであること」では〈男性70歳以上〉が50.0%、〈男性60~64歳〉が48.5%と高くなっている。「手軽に調理できるものであること」では〈女性60~64歳〉が50.0%、〈女性70歳以上〉が48.3%と高くなっている。「地域の伝統や歴史、行事にちなんだものであること」では〈男性の30歳代と40歳代〉と〈女性20歳代〉が4割近くと高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、「健康・栄養に配慮したものであること」では〈その他の無職・学生〉が45.1%と高くなっている。「手軽に調理できるものであること」では〈家事〉が44.8%、〈農林漁業〉が44.1%と高くなっている。

地域別でみると、「健康・栄養に配慮したものであること」では〈県南地域〉が40.5%と他の地域に比べて高くなっている。

市郡別でみると、「健康・栄養に配慮したものであること」では〈町〉が42.7%、「手軽に調理できるものであること」では〈町〉が39.9%と、〈宇都宮市〉や〈宇都宮市以外の市〉と比べて高くなっている。

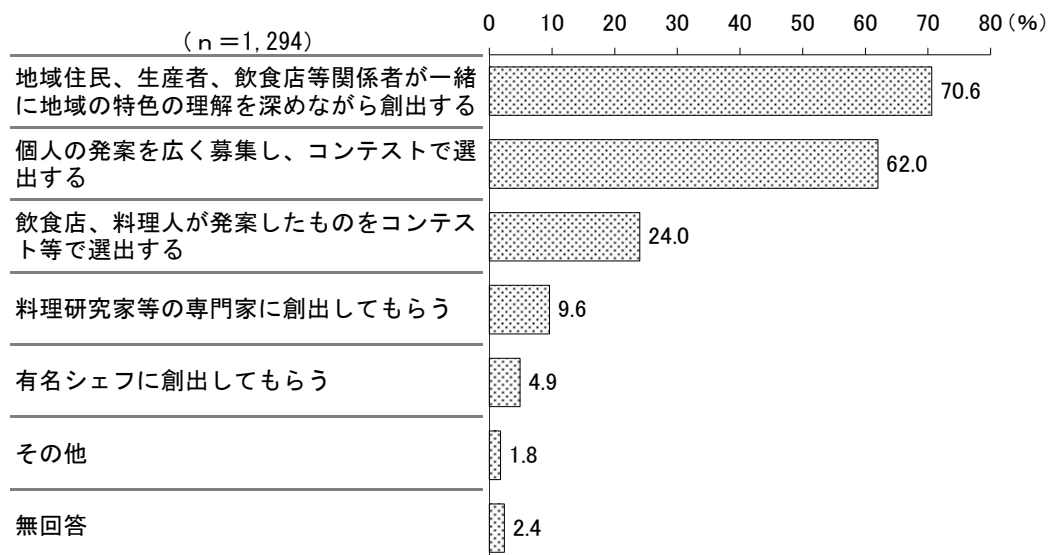
(2) 「新たな郷土の食」を創出するための方法

問30 「新たな郷土の食」は、どのように創出するのが良いと思いますか。

次の中から2つまで選んでください。

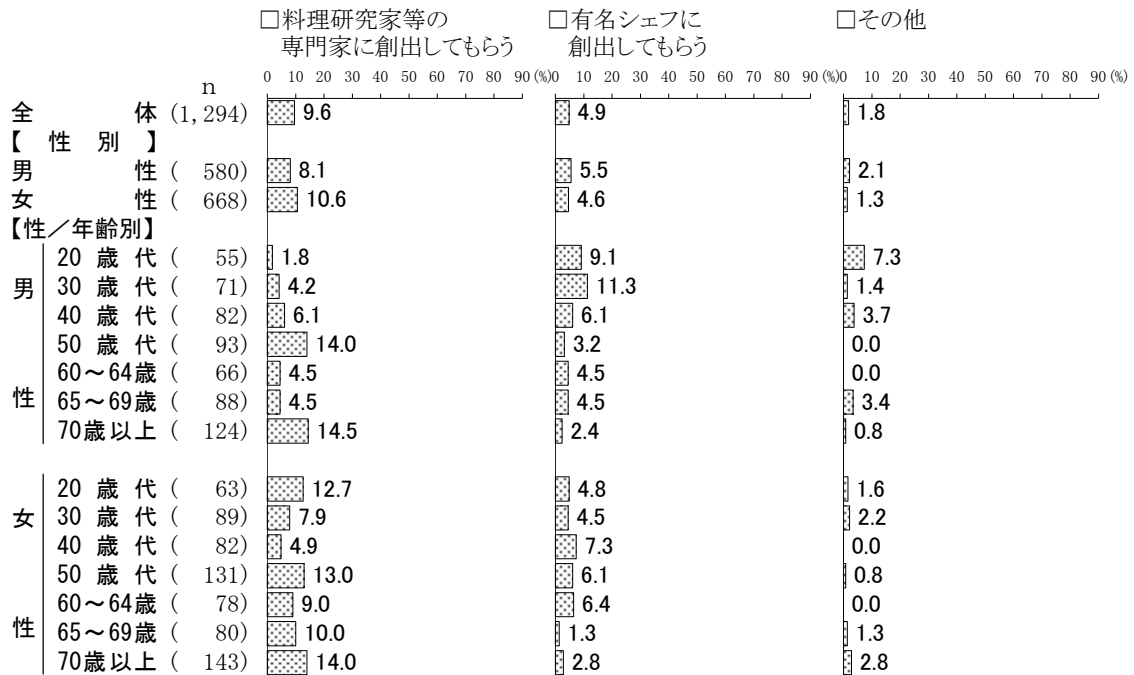
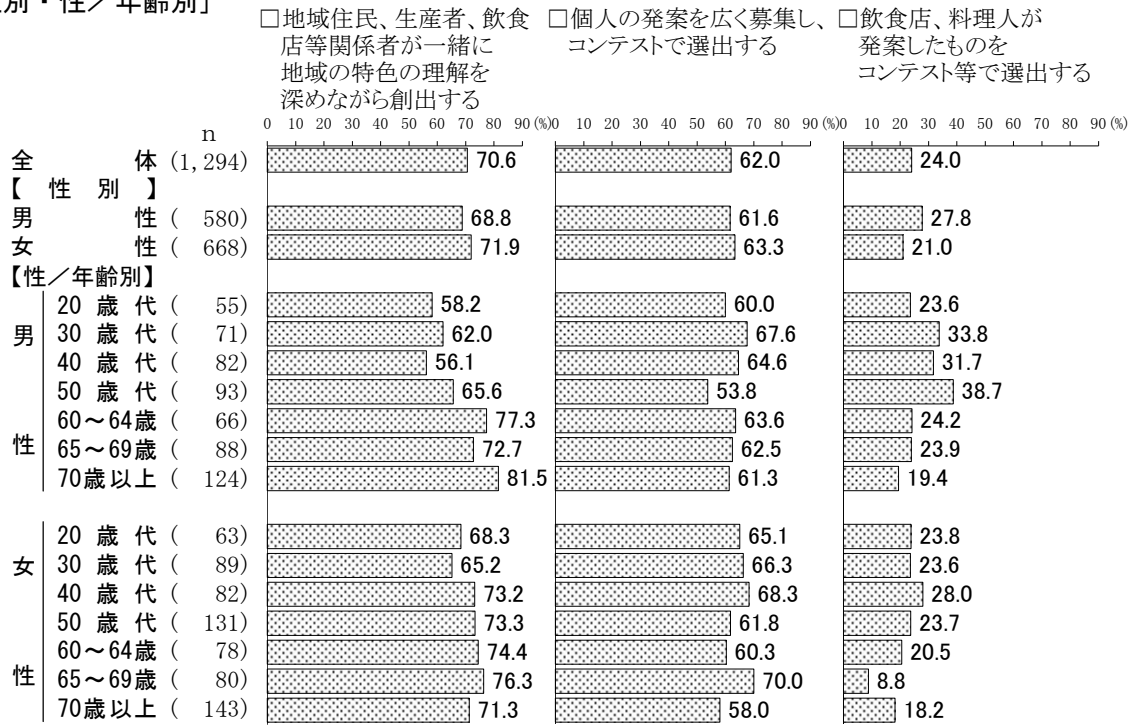
[n=1,294]

1	飲食店、料理人が発案したものをコンテスト等で選出する	24.0%
2	個人の発案を広く募集し、コンテストで選出する	62.0
3	地域住民、生産者、飲食店等関係者が一緒に地域の特色の理解を深めながら創出する	70.6
4	有名シェフに創出してもらう	4.9
5	料理研究家等の専門家に創出してもらう	9.6
6	その他	1.8
	(無回答)	2.4



全体で見ると、「地域住民、生産者、飲食店等関係者が一緒に地域の特色の理解を深めながら創出する」(70.6%)がほぼ7割で最も高く、次いで「個人の発案を広く募集し、コンテストで選出する」(62.0%)、「飲食店、料理人が発案したものをコンテスト等で選出する」(24.0%)、「料理研究家等の専門家に創出してもらう」(9.6%)の順となっている。

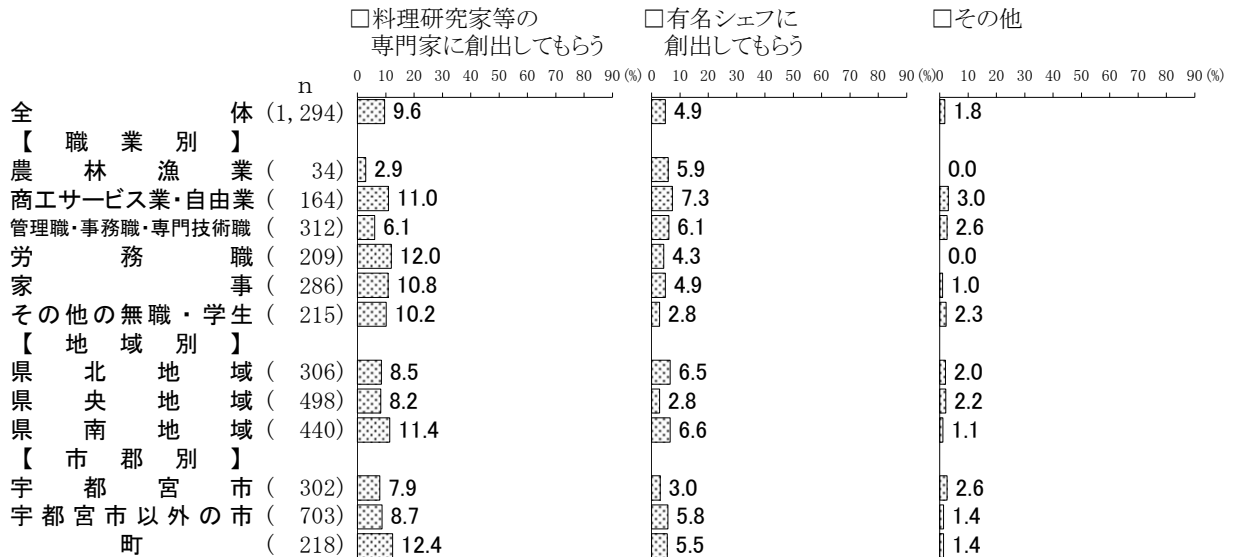
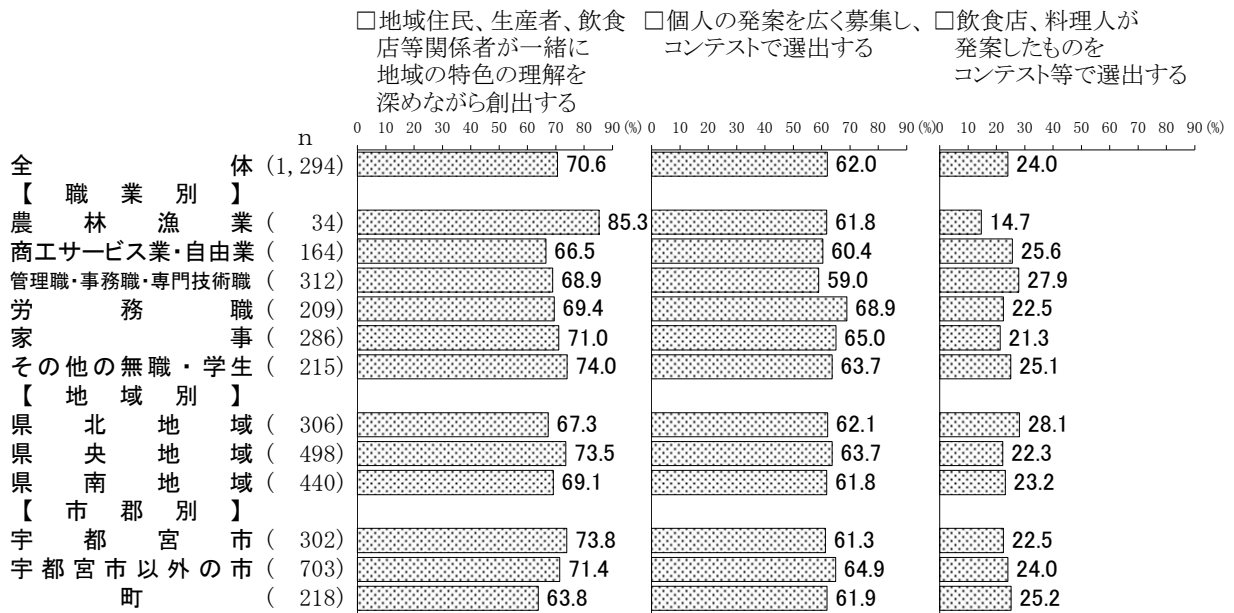
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「飲食店、料理人が発案したものをコンテスト等で選出する」では〈男性〉(27.8%)が〈女性〉(21.0%)より6.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「地域住民、生産者、飲食店等関係者が一緒に地域の特色の理解を深めながら創出する」では〈男性70歳以上〉が81.5%と高くなっている。「個人の発案を広く募集し、コンテストで選出する」では〈女性65~69歳〉が70.0%と他の年代に比べて高くなっている。「飲食店、料理人が発案したものをコンテスト等で選出する」では〈男性50歳代〉が38.7%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、「地域住民、生産者、飲食店等関係者が一緒に地域の特色の理解を深めながら創出する」では〈農林漁業〉が85.3%と他の職業に比べて高くなっている。「個人の発案を広く募集し、コンテストで選出する」では〈労務職〉が68.9%と高くなっている。

地域別でみると、「飲食店、料理人が発案したものをコンテスト等で選出する」では〈県北地域〉が28.1%と他の地域に比べて高くなっている。

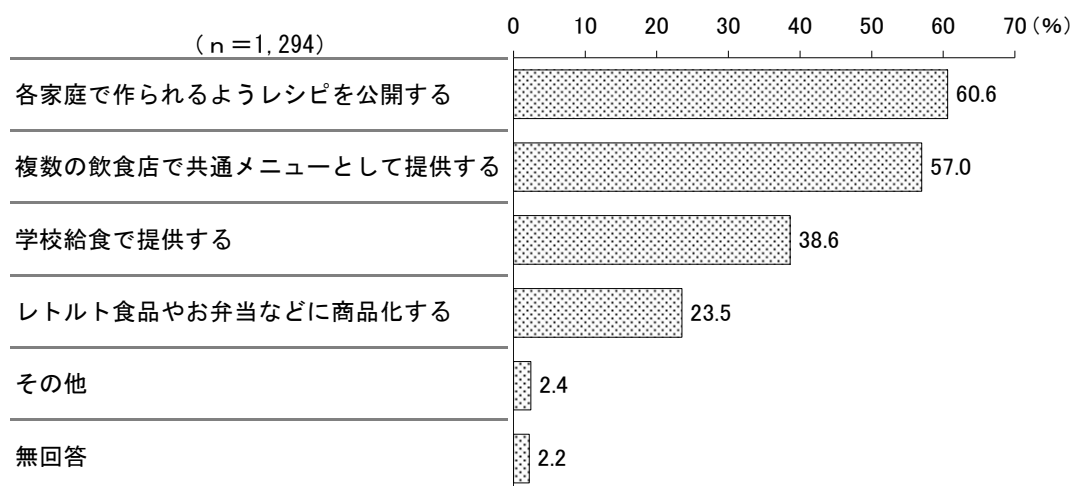
市郡別でみると、「地域住民、生産者、飲食店等関係者が一緒に地域の特色の理解を深めながら創出する」では〈宇都宮市〉が73.8%と、〈宇都宮市以外の市〉や〈町〉と比べて高くなっている。

(3) 「新たな郷土の食」を地域に浸透させていくための方法

問31 「新たな郷土の食」を地域に浸透させていくためには、どうすればよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

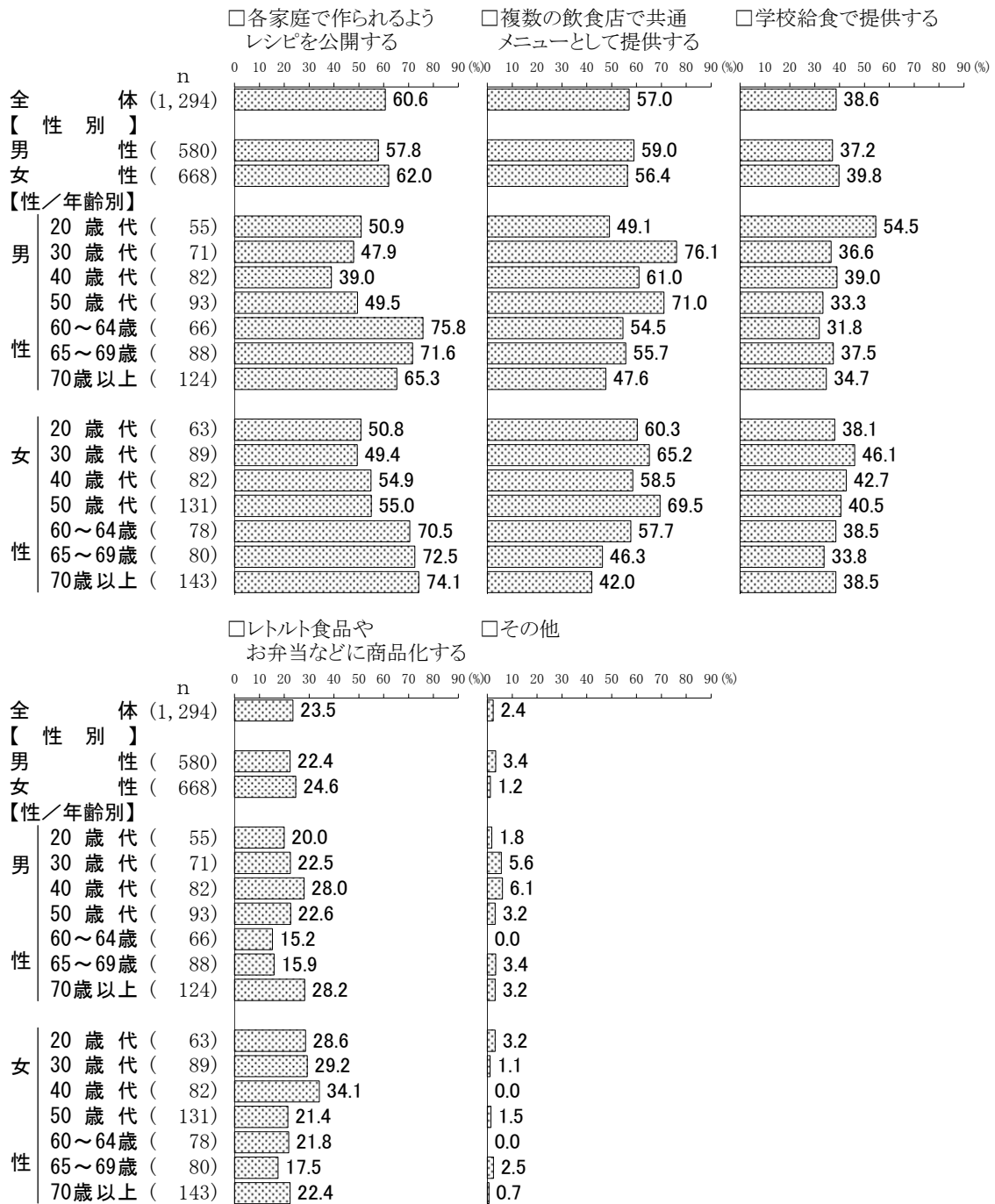
[n=1,294]

1	複数の飲食店で共通メニューとして提供する	57.0%
2	各家庭で作られるようレシピを公開する	60.6
3	レトルト食品やお弁当などに商品化する	23.5
4	学校給食で提供する	38.6
5	その他	2.4
	(無回答)	2.2



全体で見ると、「各家庭で作られるようレシピを公開する」(60.6%)がほぼ6割で最も高く、次いで「複数の飲食店で共通メニューとして提供する」(57.0%)、「学校給食で提供する」(38.6%)、「レトルト食品やお弁当などに商品化する」(23.5%)の順となっている。

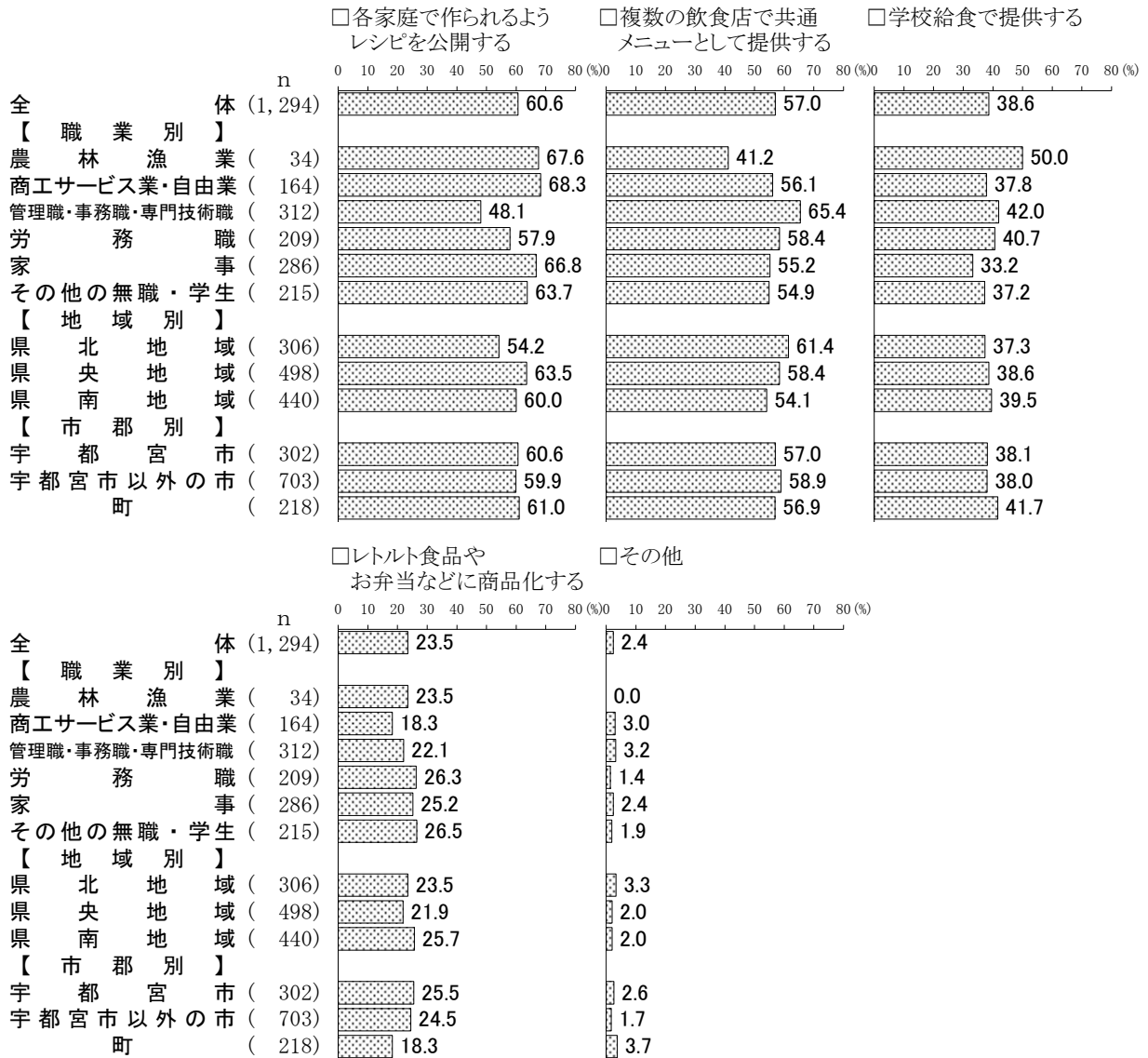
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「各家庭で作られるようレシピを公開する」では〈女性〉(62.0%)が〈男性〉(57.8%)より4.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「各家庭で作られるようレシピを公開する」では〈男性60~64歳〉が75.8%、〈男性65~69歳〉が71.6%と高くなっている。「複数の飲食店で共通メニューとして提供する」では〈男性30歳代〉が76.1%、〈男性50歳代〉が71.0%と高くなっている。「学校給食で提供する」では〈男性20歳代〉が54.5%と高くなっている。「レトルト食品やお弁当などに商品化する」では〈女性40歳代〉が34.1%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、「複数の飲食店で共通メニューとして提供する」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が65.4%と高くなっている。「学校給食で提供する」では〈農林漁業〉が50.0%と他の職業に比べて高くなっている。

地域別でみると、「各家庭で作られるようレシピを公開する」では〈県央地域〉が63.5%、「複数の飲食店で共通メニューとして提供する」では〈県北地域〉が61.4%と、他の地域に比べて高くなっている。

市郡別でみると、大きな傾向の違いはみられない。